

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成21年度第4回）議事要旨

1. 日 時 平成22年3月25日（木）14:20～16:10
2. 場 所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 磯貝議長（学長）
村井、新名、澤田、畚野（以上理事）、木戸出、垣内（以上副学長）の
各委員
井上、小出、宮嶌、森下、CASSIMの各学外委員
欠席者 石井、佐々木、志村の各学外委員
出席監事 三木監事
陪席者 佐藤、東の両部長
鈴木、吉田、奥田、坂本、林田、梅野、向井の各課長
中條環境安全衛生管理室長
4. 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成21年度第3回）議事要旨（案）
資料2 第2期中期計画の認可申請について
資料3 平成22年度年度計画の届出について
資料4 平成22年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学予算編成方針について（案）
資料5 平成23年度新規概算要求検討状況事項一覧
資料6 平成21年度運営費交付金の繰越しについて（案）
資料7-1 学内諸規約の改正について
資料7-2 基本規則等の一部改正（組織運営の見直し）について
資料7-3 有期契約職員の時間給の見直しについて
資料7-4 一般職の職員の給与に関する法律の改正に伴う超勤代休時間制度の本学の対応及び関連学内諸規程の一部改正について
資料7-5 職員退職手当規程等の一部改正について
資料8 本学の主な動きについて（平成22年1月25日（月）～平成22年3月24日（水））
資料9 国立大学法人等における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について
資料10 平成21年度外部資金の受入れについて
資料11 平成22年度外部資金の受入れについて
資料12 平成21年度ライセンス契約の概要
資料13 人員管理の策定について（素案）
資料14 第2期中期目標期間を経た6年後イメージについて
参考資料1 平成22年度経営協議会開催予定一覧表
参考資料2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 平成21年度経営協議会委員一覧
参考資料3 関係する学内規約について
机上資料 朝日新聞切り抜き（平成22年3月25日（朝刊）第1面・第37面）
机上資料 NAIST概要&特色 データで見る 学生関係データ
机上資料 財務報告書

5. 議 事

(前回議事要旨の確認)

資料1の前回(平成21年度第3回)の議事要旨(案)について、原案どおり承認された。

(審議事項)

(1) 第2期中期計画の認可申請について

村井理事から、資料2に基づき、第2期中期計画の認可申請について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。また、今後の修正等については、議長(学長)に一任することが了承された。

(学外委員からの主な意見は、次のとおり)

- ・奈良先端大は素晴らしい大学だが、あまり知られていない。奈良先端大のブランド名及びイメージの国内外への普及等、ブランディングについて、積極的に取り組んではどうか。
- ・評価で弱かった点について重点的に計画に盛り込めば、今後のより良い評価につながるのではないか。

(2) 平成22年度年度計画について

村井理事から、資料3に基づき、平成22年度年度計画の届出について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。また、今後の修正等については、議長(学長)に一任することが了承された。

(3) 平成22年度予算編成方針について

澤田理事から、資料4に基づき、平成22年度予算編成方針について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(4) 平成23年度概算要求事項について

澤田理事から、資料5に基づき、平成23年度概算要求事項の方向性について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(5) 平成21年度運営費交付金の繰越しについて

澤田理事から、資料6に基づき、期中完了予定の工事が予期せぬ事故の発生により完了しないことに伴い平成21年度運営費交付金の繰越しが発生することについて説明が行われ、審議の結果、文部科学省へ繰越承認申請を行うことについて原案どおり承認された。

(6) 学内諸規約の改正について

澤田理事から、資料7-1~5に基づき、学内諸規約の改正について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(報告事項)

(1) 本学の主な動きについて(平成22年1月25日~平成22年3月24日)

議長から、資料8に基づき、前回の経営協議会開催以降の本学の主な取組や活動状況等について報告が行われた。

- (2) 平成20事業年度における剰余金の取り扱いについて
澤田理事から、資料9に基づき、平成20事業年度における剰余金の承認等について説明が行われた。
- (3) 平成21年度外部資金の受入れ状況について
新名理事から、資料10に基づき、平成21年度外部資金の受入れ状況について報告が行われた。
- (4) 平成22年度外部資金の受入れ状況について
新名理事から、資料11に基づき、平成22年度外部資金の受入れ状況について報告が行われた。
- (5) 平成21年度ライセンス契約の概要について
新名理事から、資料12に基づき、平成21年度ライセンス契約の概要について報告が行われた。

(その他)

- (1) 人事計画に基づく人員管理について
澤田理事から、資料13に基づき、人事計画に基づく人員管理について説明が行われた。
- (2) 第2期中期目標期間を経た6年後イメージについて
村井理事から資料14に基づき、第2期中期目標期間を経た6年後イメージについて説明が行われた。

(学外委員からの主な意見は、次のとおり)

- ・国立大での評価が1位になったことを対外的に広報するなど、積極的にPRすべきである。
- ・明治時代に日本が急速に発展したのは、科学技術的な合理性だけでなく、社会的合理性が同時に存在した背景がある。奈良先端大の場合、科学的合理性はクリアしているが、社会的合理性の条件も実施している旨を奈良先端大はもっと社会に積極的にアピールしていく必要がある。そうすると奈良先端大のイメージ向上につながる。
- ・奈良先端大に行けば世界最先端の研究が出来るということをもっと学生にアピールすべきである。
- ・今後、概算要求を行う際は、今の政府の方向性等を踏まえ、それに沿った表現にすべきである。
- ・高等専門学校が大学院教育にスムーズに入れる仕掛けを考えてはどうか。
- ・国際戦略の中に国際地域戦略を持つべきである。いくつかの切り口を使って戦略的に留学生等を受け入れる工夫してはどうか。
- ・設立時の3本柱(3分野)の再検討をすべきではないか。例えば奈良先端大のテクノロジーと世界の最先端のデザイン等の大学との組み合わせによるダブルディグリーなどの発想も必要ではないか。
- ・人が集まるところに知恵が生み出せる。テーマを決めないで進め、独創的な研究者により思わぬ開発が進んだ実績がある。厳しい予算の中で、自主的に運営費及び研究費

を調達するために高いレベルのアカデミックを活かして収入を増やす方策を専門的なコンサルティングのアドバイズを受けて、長期的に考えるべきである。潤沢な資金と人材が集まることが重要と考える。

- 日進月歩の他の研究の進歩を毎日理解し、これからの共同・複合の仕組みを考えるべきである。
- 中長期的に3分野の再検討と科学技術力を活用する日本の外交への貢献が多くできる大学として、国際的に「Japanese science for humanity」を実現する高等教育機関へ発展して行って欲しい。今後の発展段階へ「やすまず」「あせらず」取り組んで行って欲しい。

以 上